

日本の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）12 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

9 日と 10 日に噴火 が各 1 回観測された。9 日は爆発的噴火であった。

桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

9～12 日、20 日及び 22 日に噴火が観測され、22 日には爆発的噴火が 1 回観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山】

十勝岳 [やや活発な状況]

62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動は依然としてやや活発であった。火山性地震が上旬にやや多く発生した。

三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

12 日及び 22 日に変色水が確認された。

阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性連続微動の振幅のやや大きくなる状態が繰り返し観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いている。

霧島山（御鉢）[やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いているが、次第に収まる傾向がみられる。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。



末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- : 噴火した火山
- ◇ : 活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- ▲ : その他記事を掲載した火山等の丸付き数字 : 火山活動度レベル

図 1 今回記事を掲載した火山

各火山の活動解説

雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特段の変化がみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温状態が続いていると推定される。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

倶多楽 【静穏な状況】

期間中、火山性地震及び火山性微動は観測されず、火山活動は静穏な状態が続いている。

有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測では、わずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

恵山 【静穏な状況】

地震活動には特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

6 日に陸上自衛隊の協力により行った上空からの観測でも、噴気地熱地帯に特段の変化はなかった。

秋田駒ヶ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

吾妻山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

磐梯山 【静穏な状況】

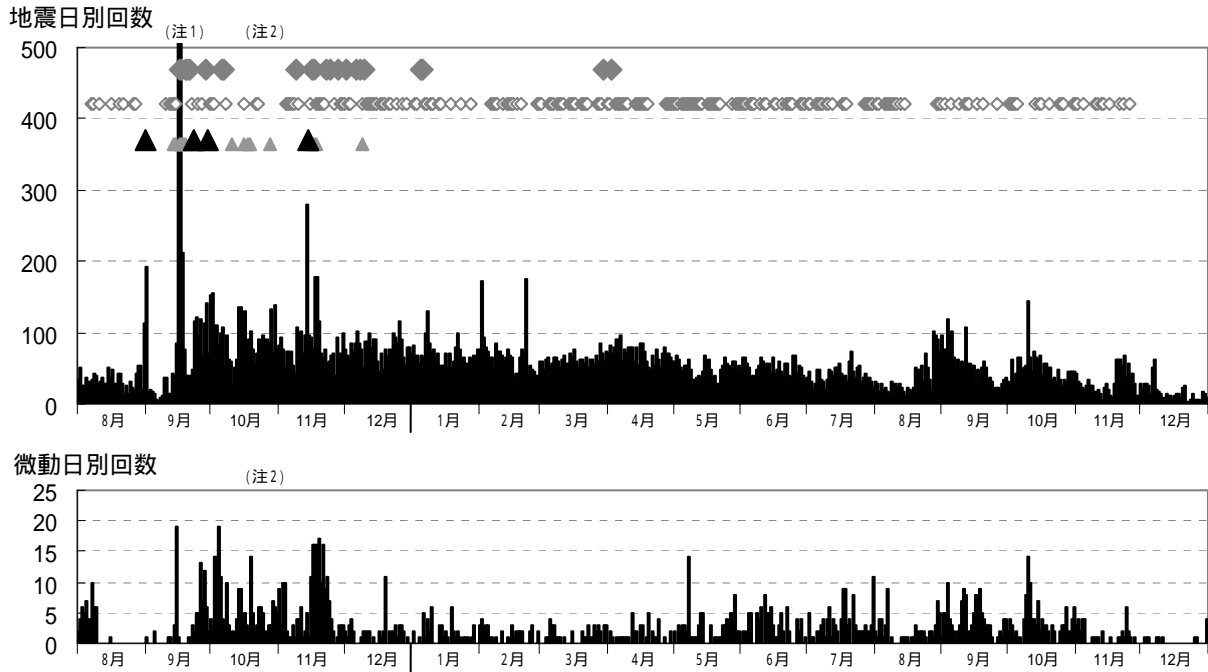
地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

草津白根山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。



(注1) 2004年9月16日の地震回数は1406回、17日は624回。
 (注2) 2004年10月23日は新潟県中越地方の地震により18～23時の計数不能。

図2 浅間山 2004年8月～2005年12月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 : 中爆発、 : 小噴火以下、 : 火映（肉眼） : 火映（高感度カメラ）

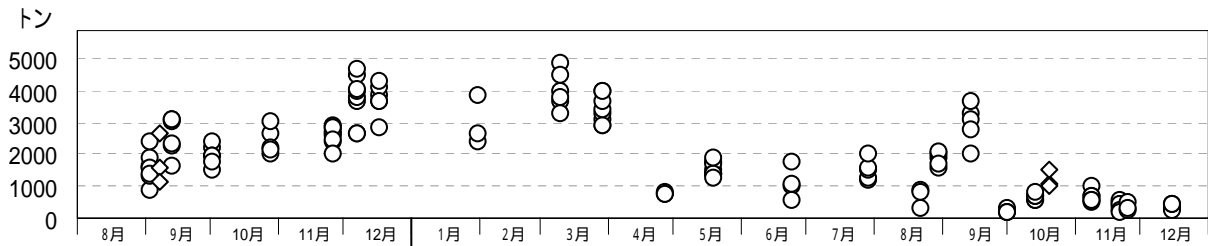


図3 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2005年12月）
 : 車載トバース、 : ヘリ搭載トバース

浅間山 [やや活発な状況（レベル2）]

噴煙活動は依然としてやや活発であった。火山性地震が上旬にやや多く発生した。

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発で、白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上200mで推移した（最高は7日の火口縁上500m）。火映は、天候不良などの影響で観測できない日が多いこともあり、今期間は観測されなかった（図2）。

15日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は1日あたり300～400トンとやや少ない状態であった（前回11月25日300～500トン）（図3）。

火山性地震は、6日と7日に50回を超えるな

ど上旬はやや多い状態が続いた。中旬以降はやや少なくなる傾向がみられた。震源はほとんどが山頂火口直下の深さ約1～3kmに分布しており、前期間までと比べ特段の変化はなかった。火山性微動は時折発生し、31日に4回と一時的にやや多く発生した（図2）。

GPS連続観測では、一部の基線で見られていた山体の膨張を示すゆっくりとした水平距離の伸び（浅間山深部へのマグマの注入、蓄積を示すと考えられる）は、2005年6月頃には停滞した状態となっている。また、傾斜計による観測及び気象研究所と共同で行っている光波測距観測では、火山活動の高まりを示すような変化はなかった。

御嶽山 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

富士山 [静穏な状況]

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

地震活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

伊豆大島 [静穏な状況（レベル1）]

地殻変動観測では長期的な山体の膨張傾向が継続しているが、噴煙は観測されず、地震活動も 29～30 日に一時的な増加がみられたものの（後述）、火山活動には特段の変化はなく静穏に経過した。

29 日 23 時から 30 日 05 時にかけて、島の西方沖の深さ 4～6 km 付近を震源とする地震が一時的に増加した。最大地震は 30 日 03 時 20 分に発生した M（マグニチュード）0.9 で、震度 1 以上を観測した観測点はなかった。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。その他の観測データには特段の変化はなかった。この周辺では、これまでにもしばしば地震の一時的な多発がみられており、最近では 2005 年 11 月上旬にも発生している。

三宅島 [やや活発な状況]

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね 200～300m で推移した（最高は 20 日の火口縁上 1,300m）。

火山ガス観測¹⁾では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 2,100～6,200 トンと依然として多い状態であった（図 4）。三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

15 日に陸上自衛隊の協力により上空から行った火口内の観測では、火口内温度の最高は約 110℃ で（赤外熱映像装置²⁾による）依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

2 日、23 日及び 26 日には火山性地震が一時的に増加して、1 日あたりの回数はそれぞれ 33 回、51 回及び 58 回となった。これらの地震増加では、噴煙の状況に変化はなく、その他の観測データにも特段の変化はみられなかった。その他の日は少ない状態で経過した。地震の震源はほとんどが山頂火口直下に分布し、前期間までと比べて特段の変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

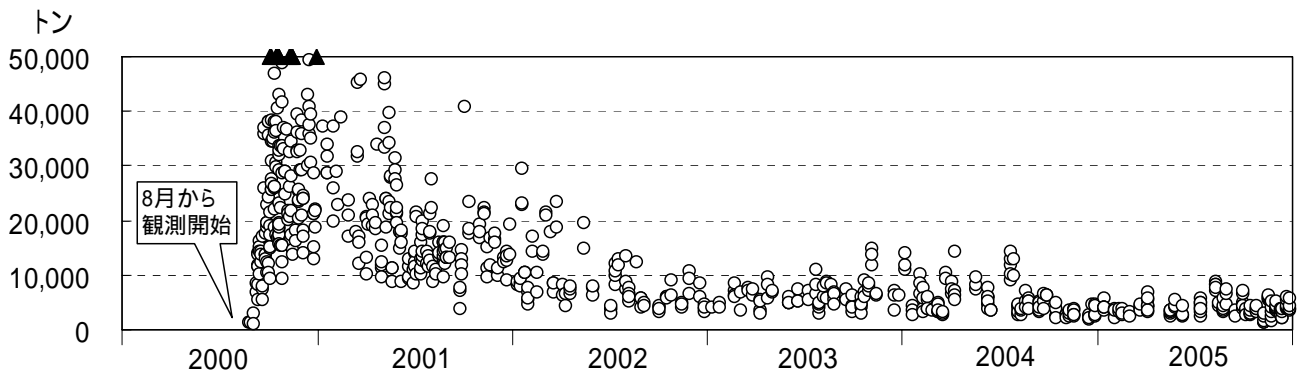


図 4 三宅島 二酸化硫黄の 1 日あたりの放出量（2000 年 8 月～2005 年 12 月）
2004 年秋以降は 1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

（注） は 50,000 トン/日以上を表す。

- 1) 8日、12日、19日及び26日に実施。
- 2) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度もしくは温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。

福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

12日に海上保安庁、22日に海上自衛隊が行った上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近に火山活動によると考えられる変色水が確認された。

12日の変色水は福徳岡ノ場付近から西南西へ伸びる長さ約3,500m、幅約100mの淡い水色のもので、22日は福徳岡ノ場付近から東南東へ伸びる長さ約5,000m、幅約100mの青緑色のものであった。いずれの日も、同海域周辺で噴煙や浮遊物は確認されなかった。

福徳岡ノ場では以前から変色水が度々確認されており、2005年7月2～3日には小規模な海底噴火が発生し、その後もしばしば変色水が確認されている。

九重山 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

阿蘇山 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性連続微動の振幅のやや大きくなる状態が繰り返し観測されるなど、火山活動はやや活発な状態が続いている。

火山性連続微動の振幅は、期間の初めはやや大きい状態が続いていたが、4日昼頃からやや小さい状態となった。その後、19～21日に数分間程度、振幅がやや大きくなる状態が時々観測されたが、その他の期間は概ねやや小さい状態で経過した。

12月1日及び20日に行った現地観測では、火口内の湯だまり³⁾は、量が約8割、色が乳緑色で変化なく、表面温度は59～60（赤外放射温度計²⁾による）とやや低い値であった（湯だまり量が約8割に増加した11月8日（前期間）以降、表面温度は60前後とやや低い値が続いてい

る）。湯だまり内では土砂噴出は観測されなかったが、引き続き噴湯現象が観測された。

孤立型微動の発生状況に大きな変化はなかった（月回数は今期間2143回、前期間2320回）。火山性地震は前期間より増加したが、2005年5～9月と同程度の発生状況である（月回数は今期間404回、前期間104回）。

噴煙の状況には特段の変化はなく、GPSによる地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測によると、火山活動に伴う変化は認められなかった。

- 3) 湯だまり：活動静穏期の中岳第一火口内には、地下水などを起源とする約50～60の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

雲仙岳 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データには特段の変化はなく、静穏に経過した。

霧島山（新燃岳） 【静穏な状況（レベル1）】

地震活動は低調で、GPS及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

霧島山（御鉢） 【やや活発な状況（レベル2）】

御鉢火口内で2003年12月に確認された噴気孔からの噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いているが、消長を繰り返しながら次第に収まる傾向がみられており、今期間は火口縁を超える噴気は観測されなかった。

火山性地震の活動は低調で、火山性微動は観測されなかった。GPS及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

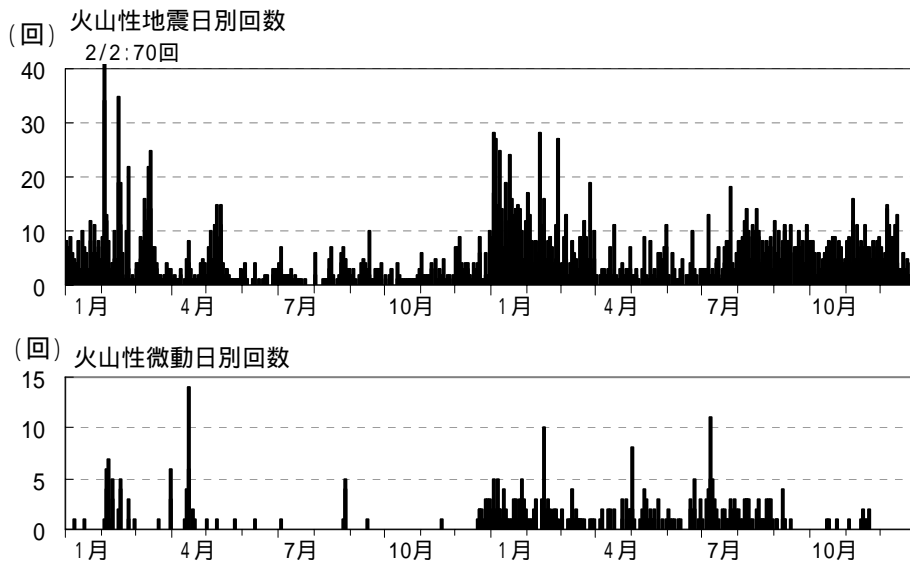


図5 口永良部島 火山性地震及び微動の日別回数（2004年1～2005年12月）
2005年12月15～28日は京都大学のデータによる。

桜島 【比較的静穏な噴火活動（レベル2）】

期間中観測された噴火⁴⁾は2回で、噴火活動は比較的静穏な状態が続いている。

9日と10日に噴火⁴⁾が各1回観測された。9日は爆発的噴火であった。9日22時46分に発生した爆発的噴火では、噴煙が火口縁上1,500mまで上がり、噴石が7合目まで飛散するのが観測された。また、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で弱い体感空振（注意深くしていると感じる程度）を観測した。噴石の飛散が観測されたのは2004年5月15日以来である。

この他、ごく小規模な噴火も時折観測されたが、鹿児島地方気象台（南岳の西南西約11km）で降灰は観測されなかった

火山性地震は、B型地震が上旬及び下旬にやや多く発生したが、長期的には少ない状態が続いている。火山性微動も少ない状態が続いている。

GPSによる地殻変動観測では、長期的には始良カルデラの膨張によるとみられる東西方向のわずかな伸びの傾向が続いているが、3月以降は伸びの鈍化が見られている。

4) 桜島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的噴火もしくは一定の規模以上の噴火を桜島の噴火の回数として計数している。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル2）】

噴火は観測されなかったが、噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した（最高は18日及び29日の600m）。

火山性地震の発生状況に特段の変化はなく、火山性微動は少ない状態で経過した。

口永良部島 【やや活発な状況（レベル2）】

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は169回（前期間205回）であった⁵⁾（図5）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は観測されなかった。

監視カメラ（新岳の北西約4kmに設置）による観測では、噴気は観測されなかった。

5) 12月15～28日は京都大学のデータによる。

諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル3）】

9～12日、20日及び22日に噴火が観測され、22日には爆発的噴火が1回観測された。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、火山灰を含む噴煙が9～12日にかけて火口縁上300～800m、20日に火口縁上700mまで上がっているのが確認された。22日の爆発的噴火の際は噴煙

の状況は不明であった。

同出張所によると、9～10日に集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。また、20日には集落では降灰はなかったが、切石港（御岳の南約3.5km）で少量の降灰があった。

火山性微動は、9～10日に連続的なものを含めやや多く観測された。その他の日は少ない状態であった。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなく、概ね少ない状態で経過した。

硫黄島 〔静穏な状況〕

12日に海上保安庁が上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなかった。気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測においても、期間中の地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

資料 1 2005 年 12 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 199 号	2 日 16:00	11 月 25 日～12 月 2 日 15 時までの活動状況。11 月 25 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 200 号	9 日 16:00	2 日～12 月 9 日 15 時までの活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 201 号	16 日 16:00	9 日～16 日 15 時までの活動状況。15 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 202 号	22 日 16:00	16 日～22 日 15 時までの活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 203 号	28 日 16:00	22 日～28 日 15 時までの活動状況。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 580～610 号 (1 日 1 回発表)	1 日～31 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 55 号	2 日 11:15	やや活発な火山活動が継続（連続微動の振幅のやや大きい状態継続）。レベルは 2。
	火山観測情報第 56 号	9 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（連続微動は振幅のやや大きくなる状態を繰り返している）。レベルは 2。
	火山観測情報第 57 号	16 日 11:00	
	火山観測情報第 58 号	22 日 11:00	
	火山観測情報第 59 号	28 日 11:00	

資料 2 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年 (2005年)											
		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
雌 阿 寒 岳	活動												
十 勝 岳	活動												
樽 前 山	活動												
吾 妻 山	活動 レベル												
草 津 白 根 山	活動 レベル												
浅 間 山	活動 レベル												
伊 豆 大 島	活動 レベル												
三 宅 島	活動												
福 徳 岡 ノ 場	活動												
九 重 山	活動 レベル												
阿 蘇 山	活動 レベル												
雲 仙 岳	活動 レベル												
霧 島 山 (新 燃 岳)	活動 レベル												
霧 島 山 (御 鉢)	活動 レベル												
桜 島	活動 レベル												
薩 摩 硫 黄 島	活動 レベル												
口 永 良 部 島	活動 レベル												
諏 訪 之 瀬 島	活動 レベル												

活動状況（活動）

：噴火した火山

：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

：小規模な噴火が発生かその可能性

：やや活発な火山活動

（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）

：静穏な火山活動

世界の主な火山活動

平成 17 年（2005 年）12 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

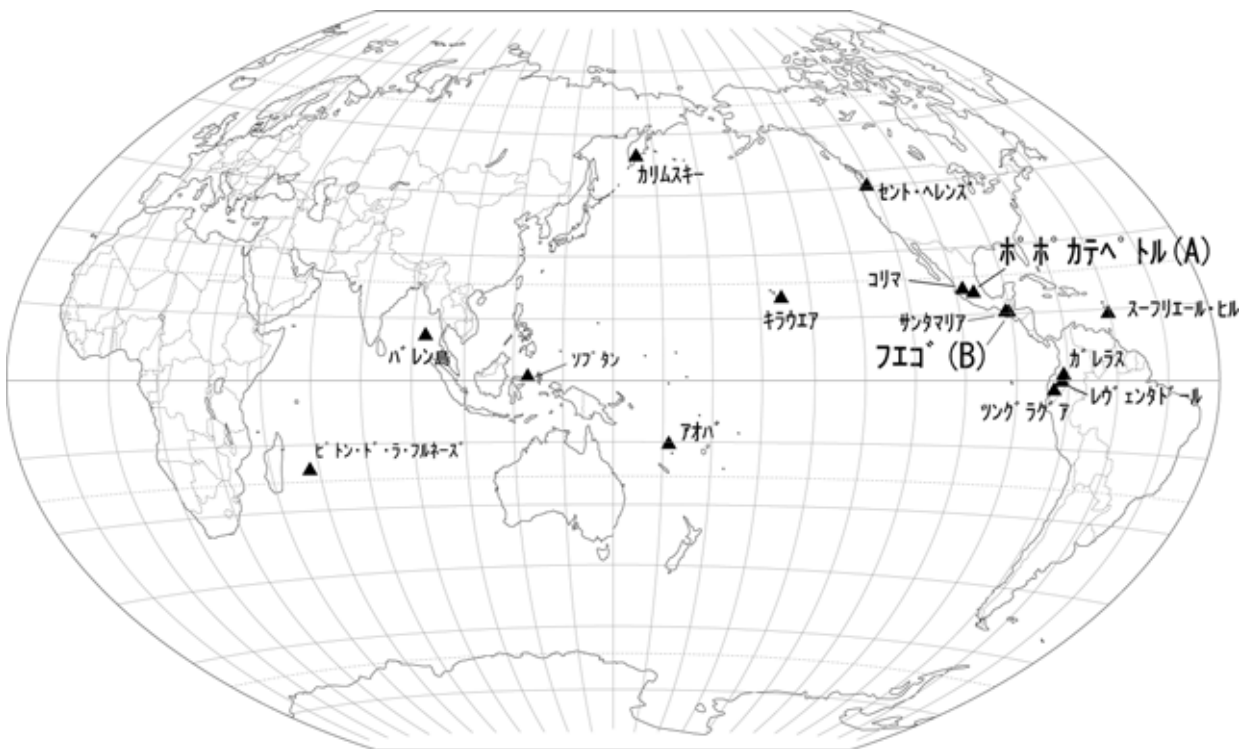
ポポカテペトル火山（メキシコ）(図中 A)

12 月 1 日に爆発的噴火があり、噴煙が海拔 10km まで上がった。その後噴火活動が活発になり、小規模な爆発的噴火が増加した。12 月 4 日の噴火では火口の北東～東 50～60km で降灰があった。活発な噴火活動はその後収まったが、その後も時々噴火が発生し、25 日の噴火では噴煙が約 9 km まで上がった。

フエゴ（グアテマラ）(図中 B)

27 日に噴火活動が始まり、溶岩流が発生して南西、西及び南東側山腹の谷を流れ、一部は火口から約 2 km まで達した。また、火砕流も発生して南西及び西側山腹の谷を流れ、一部は火口から約 2 km まで達した。噴煙は海拔約 6 km まで上がり、火山の南にあるサンホセ港で降灰があった。溶岩の流下は 29 日まで続き、噴火活動は期間の終わりまで続いた。

(以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P (Global Volcanism Program) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針（参考編）」による。)



平成 17 年 12 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）